

脱原発市民会議が原発再稼働反対で仙台市交渉

東北電力大口株主仙台市に株主総会での原発再稼働反対を求める

脱原発仙台市民会議は 12 団体共同提出の形で、6 月 6 日仙台市に「来る東北電力株主総会において仙台市が女川原子力発電所の再稼働に反対することなど、エネルギー政策に関する要望書」を提出しました。

あわせて「東京電力福島第一原発の放射能汚染処理水海洋放出に反対すること」も申し入れました。



トリチウムは染色体異常・癌発症の原因物質で危険

今回の申し入れでは「東電の放射能汚染処理水海洋放出に反対すること」も要望しました。その中で、世界各地のトリチウムによる健康被害報告を紹介。「日本の放射線医学総合研究所で 1974 年低濃度でも人のリンパ球に染色体異常を起こす(中井斌氏)と報告がされ、同じく 70 年代に英国王立医学院でトリチウムにより原子炉労働者に優位に前立腺癌が発症するとの報告がされ、1983 年英国人科学者ガードナーがセラフィールド再処理工場の労働者の被曝が小児白血病を増加させていて、その原因核種はトリチウムとプルトニウムであると報告。また 2015 年カナダ原子力委員会がピカリング重水炉でトリチウムを年間 25 百兆ベクレル放出し、原子炉周辺都市でダウン症の出産が他地域より 8 割多いと報告。なおイギリス食品基準庁が 1997 年から 10 年間トリチウムの生態濃縮を観測し、ヒラメや二枚貝で海水の二千倍～三千倍の濃縮が確認された」と報告し、トリチウムがこわい放射性物質であることを強調しました。

東北電力の株は売り買いの対象ではない

今回の交渉で確認できたことが、仙台市は「東北電力の株を売り買いの対象と考えてはいない」ことです。私たちは一貫して「株を売却し自然エネルギー拡大に努めること」を要望してきましたが、この要望内容の変更が必要のようです。「三居沢水力発電所など仙台市が過去に所有していた発電所を仙台市に返却させ、市民が気軽に自然エネルギーを学べる施設にすること」などを要望していくことが必要な気がします。

参加市民は住民を守る自治体の役割を強調

交渉に参加された市民は「住民の健康を守ることが自治体の使命」「大株主仙台市自身が原発再稼働反対の意見を提出すべき」「国の判断にまかせず地方自治体の責任を果たしてほしい」と発言。参加 18 名中 11 名が発言しました。

次回 7 月 6 日(水) 午前 11 時上杉分庁舎 2 階会議室で

仙台市ともう 1 回話し合うことになり、次回は 7 月 6 日(水)午前 11 時から、同じく上杉分庁舎 2 階で行われます。参議院選挙真っただ中ですが、多くの市民の参加をお願いします。

大崎住民訴訟を支援する会ニュース第18号(2022年6月)

事務局 電話番号：070-2010-3777 〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目17-12

事務局アドレス osaki.shien@gmail.com <https://www.facebook.com/osaki.shien>

5月9日、大崎支援する会がちくりん舎実施の大崎焼却場周辺住民を対象とした尿検査結果の報告会開く

岩出山池月地区で南相馬市に相当する尿中セシウム値検出

放射能汚染廃棄物焼却反対宮城県民連絡会と大崎住民訴訟を支援する会は共催で、5月9日(月)オンラインによる「大崎焼却場周辺住民を対象とした尿検査結果の報告説明会」を開催しました。報告を担当したのがちくりん舎の青木一政氏。青木氏は「玉造・中央・涌谷の三か所の焼却場周辺の住民を対象に1か所40名、合計120名に、2リットルの尿を蓄える24時間尿検査を2021年6月から11月にかけて実施。特に玉造クリーンセンター周辺で、リネン吸着法と同様な傾向(焼却場風下2km付近が一番高い)が示された」と報告しました。

尿検査中央値 0.2 Bqは体内セシウム量 32.8 Bqと推定できる

しかも「南相馬市の尿検査と比較すると、中央値で南相馬市が0.225 Bq/day、岩出山池月地区が0.200 Bq/dayとほぼ同等の数字で、これをチェコスロバキアの科学者の報告(チェルノブイリ事故の影響を受けた人の尿検査と体内セシウム値の関係=成人で164倍)に照らすと、32.8 Bqの体内セシウム量を推定でき、明らかに影響を及ぼす数値と考えられる」と報告。

西日本在住者、南相馬原町区在住者との比較

比較対象者群	西日本 在住者	南相馬 在住者	Aグループ 玉造CC 2km以内	Bグループ 玉造CC 風下2km付近	Cグループ 玉造CC 風下6km付近	
結果	中央値	不検出 検出下限値 (0.09)	0.225	0.101	0.200	0.085
	平均値	不検出 検出下限値 (0.09)	0.567	0.104	0.203	0.114
出典	参考文献 i	参考文献 i	本報告	本報告	本報告	

今後はハウスダストのセシウム量を計測予定

青木氏は「今後の取り組みとして、同様の3地区でハウスダストのセシウム量を測定し、リネン吸着法・尿中検査結果とセットで考察する予定。ハウスダストの結果が出そろえば、焼却場から漏れだすセシウムとの因果関係がさらにはっきりするだろう。」と今後の抱負を語りました。新しいハウスダスト検査に期待したいと思います。

大崎住民訴訟の次回口頭弁論期日は7月25日(月)、多くの参加を期待します。

大崎住民訴訟

次回期日(口頭弁論)

日時=2022年7月25日(月)13時半~

仙台地方裁判所

報告集会=弁護士会館